

50代の今後の衣生活に対する関心
東海学園女短大 辻 啓子

目的 すでに、65歳以上の高齢者を対象に、着衣状況および被服購入に関する調査を行い、その結果を報告したが、65～69歳の者と70歳以上の者とは若干異なる傾向がみられた。そこで、今後の高齢化社会に対応するためには、これから高齢になる人達の衣生活に対する関心や考えかたを明らかにする必要があると考え、50歳以上の男女を対象に、今後の生活志向、衣生活のありかたおよび日常の衣服の品値要求項目に対する配慮等について調査を行った。

方法 1)調査対象 本学の50歳以上の父兄を対象にした。男158名、女168名である。
2)調査時期と方法 昭和62年12月～63年1月に実施した。方法は郵送留置法である。
3)調査内容 生活志向9項目、衣生活のありかた16項目(実用、社会、審美、ファッション性各4項目)、衣服(上着、下着の別)の品値要求項目20を提示し、関心や配慮の程度を4段階の評価尺度で回答を求めた。

結果 1)生活志向では健康への関心が最も高く、性別による差(\sqrt{CR} 値が0.14以上)の大きい項目は衣、食生活および健康で、女子に関心の高い者が多かった。2)今後の衣生活のありかたについては、審美、ファッション性の項目に男女の差がみられた。因子分析の結果では、男子は「年齢に小さあしい、調知のとれた着装」、「若さを表現した着装」の2つ、女子は「流行に関心をもち、全体に調知のとれた着装」、「機能性を重視した着装」、「若さを演出する着装」の3つのグループに大きく分類された。3)品値要求項目では、上着と下着に評価の異なる項目がみられ、いずれの項目も配慮の程度は女子が高かった。